

# 委員会会議録

(社)滋賀県トラック協会

会議名	第2回「トラックの日」の事業実行委員会
開催日時	平成20年4月18日(金) 13:30~16:10
開催場所	滋賀県トラック総合会館 3F「研修室1」
出席者	委員10名、事務局5名

## 協議内容

開会にあたり竹備委員長からあいさつがあった後、引続いて、岡田副委員長議事進行により協議に入った。

### (1)平成20年度事業計画(案)策定について

岡田副委員長から先ず、事前に協会ホームページの議事録を見て頂きこの実行委員会に自分の意見を持ってきて欲しいと述べ、続いて、前回の実行委員会で話をした鹿児島県トラック協会が平成17年度から実施されている「ベストエコドライバー」について資料に基づき紹介を行った。

続いて、岡田副委員長から出席者に対し意見を求めたところ次の意見があった。

- ・ 県民に対し、どういうふうに「トラックの日」をPRしていくかである。  
継続することは大事である。昨年の「少年野球教室」は続けた方が良い。  
「ベストエコドライバー」については大変良い事業であるので環境問題の担当である環境対策委員会で行ってもらってはどうか。
- ・ 安全と環境の目的で内容を考えていけばどうか。
- ・ メイン事業+ドライバーをターゲットにした内容で行っていけばどうか。そのドライバーをターゲットとした内容として「ベストエコドライバー」を行ってはどうか。
- ・ 安全と環境だけでなく人材も入れて欲しい。  
人材とは「人を育てる」とこと、「将来の人材を発掘する」とことである。

- ・ 以前行われたような「土山マラソン」のように協賛金としてお金を出すだけではダメである。みんなが汗を出すような事業が必要ではないか。
- ・ トラック協会や運送業界をPR出来る内容が良い。  
日本経済は運送業界が支えているということをPRしてはどうか。
- ・ 継続は大事である。  
花火を上げるだけでもどうかと思う。  
会員の職員・ドライバーまで関わりの持てるような事業が良いのではないか。例えば空き缶拾いでも良い。ドライバーや業界全体に「トラックの日」に対する意識付けをすることが大事である。
- ・ 空き缶だけでなく、ペットボトル、ゴミ拾いもすれば良い。「トラックの日」の事業一日だけでなく前後合わせて一週間で行ってはどうか。
- ・ 世間ではトラック業界は黒い排気ガスを出して環境を破壊している、というイメージがあるのでイメージアップとして環境にターゲットをおけばどうか。「トラックの日」を「環境問題を考える日」として事業を行ってはどうか。
- ・ 県の協力も得て、又マスコミにも取り上げてもらえるような内容を考えていかなければならない。
- ・ 人材をターゲットにしてはどうか。  
車好きの子供を作る。例えば、コースを作りゴーカートに乗せても良い。  
トラックドライバーについて一般の人がどうあって欲しいと思うのと、我々がどうあって欲しいと思うのと考えていることが違うのではないか。我々が望むドライバーを一般の人にPRしていけないか。  
先程意見があった「環境問題を考える日」としてシンポジウムやパネルディスカッションを行い、業界の指針を出していけばどうか。
- ・ 暫定税率等の問題から運送業界やトラック協会に対する風当たりがきつく、見る目も厳しい。木の苗をみんなに配り環境問題にPRしていくことを考えていけばどうか。
- ・ 予算については効果の出る使い方をすべきである。
- ・ 前回の実行委員会で竹備委員長（会長）が言われたように安全・環境・人材をメインに社会貢献事業を行ってはどうか。

- ・ 県とのタイアップということを考えると、県では県民対象として12月にマイカーのエコドライブ研修をクレフィール湖東で行われるが何か参考に出来ないか。

- ・ 植樹も含めて長く継続出来るような事業が出来ないか。

- ・ 空き缶拾いはどこでも行っており、ただ単に空き缶拾いだけでなくもう一步踏み込んだ取り組みをした方が良いのではないか。例えば、拾った空き缶をリサイクル業者に買ってもらい、その収益で青年協議会が行っているように車椅子を購入し、施設等に寄付するなど。しかし広報の仕方考えないと余り業界を前に出し過ぎるのも良くないのではないか。

それ以外に例えば、新米販売（苗植え～刈取り～販売の流れも考え）も農協とトラック協会が連動して行うのも良い。出来るだけ単独ではなくどこかと手を組んで行った方が良いのではないか。

焦点を合わせて行うのが良いと思う。

費用対効果を考え、他県でやっていない事業を行ってはどうか。

- ・ 業界をPR出来るものは何か考えていってはどうか。

- ・ 滋賀県は環境こだわり県であることから、例えば「われわれは琵琶湖を守ります」と書いたステッカーを車両に貼って外向けにPRしてはどうか。

岡田副委員長は、これらの意見を踏まえ竹備委員長（会長）に対し意見を求められ、竹備委員長から次の発言があった。

- ・ 内容は安全・環境・人材、業界の地位向上について、また燃料問題等もあり会員からの要望にも対応出来るような事業を考えて頂きたい。

また続いて事務局より、滋賀県から協力要請のあるスポレク滋賀2008（10月18日～21日）について資料により説明があり、丁度時期的にも良いのでこの辺も併せてご検討願いたいとの述べた。

以下、これを受けて続いて次の意見があった。

- ・ 先程話が出た公開によるシンポジウムはどうか。一般県民の方々もより多く参加してくれる可能性もある。

- ・ やはり継続性が大事である。昨年度「少年野球教室」を実施したが単発だけであれば一般の人は、トラック協会は一体何をやっているのか？と思われたいるか。  
植樹も3年目でやっと県民の方々に認知されるようになってきた。やはり一般の人が集まってもらえることが重要ではないか。マスコミ等の協力を得て自然と人が集まるのが良い。  
内容については、「少年野球教室」を中心にその近くで安全や環境についてのブースを作って来場者にPRしていったらどうか。
- ・ 「少年野球教室」はメイン事業にはならないと思う。
- ・ 協会45周年記念としてこの陸運団地一円で行った「トラックの日」の事業は8,000人も参加者が集まったが、あの時はみんなが汗をかいて行ったのでもの凄く達成感があった。汗をかかないとなかなか人が集まらないのではないかと。  
一つメインを決めた方が良い。
- ・ 「少年野球教室」以外で何か考えられないか。  
竹備委員長（会長）が言われているように、会員は何を必要としているか考えるべきである。
- ・ 前回実行委員会の議事録の中に、「少年野球教室」を中心に何かプラスするか、「少年野球教室」のやり方を考えていったらどうか、という意見が多くあったが、先ずその辺も併せて検討していったらどうか。
- ・ メイン事業を決めてサブ事業をくっつけていったらどうか。  
一般の人が集まるような内容が良いのではないかと。
- ・ 「少年野球教室」は事業を行ったからといって結果が出たり即効性があるものではないが、しかし続けるとトラック協会のPR等他のものが出てくる。  
マスコミ、荷主、県民、ターゲットをどこに絞るのか考えた方が良い。
- ・ 何をメインにするかである。
- ・ 業界をPR出来たら良いと思うが、一般の人を集めて何をやるかである。
- ・ 一日のイベントと、一ヶ月か一週間かけてのイベントと、シンポジウムの3本立てを行っていったらどうか。

- ・ 今の意見にプラスして、空き缶拾い、ベストエコドライバーを行ってはどうか。
- ・ シンポジウムは一般の人にも聞いてもらえるようにしてはどうか。

事務局より食事関係は交付金では使用出来ないことを述べ、次回実行委員会で委員は案を検討し持ち寄ることとなった。

#### 次回委員会

日 時 平成20年5月7日(水) 13時30分～  
場 所 滋賀県トラック総合会館